

<ふりかえり>

8月6日(火) 成田空港発 11:40→コペンハーゲン空港着 15:30→コペンハーゲン空港発  
19:30→テゲル空港着 20:30

HS 先家族と合流、あいさつ→美月

歓迎会的なものを少しやった後、解散、HS 開始!

8月6日から14日までドイツに滞在して、日本では経験することができない貴重な体験をたくさんすることが出来ました。今、私は高校2年生で、将来について真剣に考えているところです。そんな中で、今回のような体験が出来たことは、自分の将来を決定づけることにつながったし、将来の糧となりました。1番自分の将来のためになった経験は、日本語補修校でもワークキャンプでも日本語を話すことのできる外国人の方々と多くの交流をしました。このような交流を通じて、異文化でも言葉の壁を越え、同じ言語で話せることが自分にとってはすごく嬉しかったし、こうやって、母国語以外に興味を持つことが自分の視野や考え方を広げることに繋がると思いました。あと、たくさんある言語の中から日本語を選んで学んでくださっていることに感謝したいし、私も母国語である日本語をもっと大切にすべきだと思いました。異文化をこれから更に深く知っていくために、相手の文化だけでなく、自分の国や住んでいる地域の文化を知る必要があると思います。なので、私たち日本人が話す日本語を誇りに思い、そして、より言葉に親しみを持つということを心に留めてこれからの生活を送りたいと思います。そして、この国際交流の輪、つながりを途絶えさせないためにも、お互いの意見、生き方を尊重し、関係を築きあげていきたいと思いました。

それと、私がドイツに滞在していてとても印象に残っていることがあります。それは、どんなに小さいことでも、「ダンケ・シェーン」と感謝を伝えていたことです。何か物を取ってもらったり、道を教えてもらったりした時にすぐに「ありがとう」と言えるところが日本人とは違うなと思いました。それに、身近なところで感謝を感じれることは、感謝する側もされる側もうれしいと思うし、それだけで幸せな気分になれると私は思います。日常生活の中でたった一言「ありがとう」と伝えるただそれだけで気持ちは違くなるものです。震災で多くの支援をいただいた私たちが忘れてはならないもの、それが「感謝」です。だからこそ、小さなことでも感謝をすること、そして、今この時を生きていける、生かされていることに対する感謝の気持ちを忘れずに、一日一日を大切に過ごしていきたいです。

今回のすべての体験を通して、ドイツに行く前より自分が成長したと思います。出発前は、「なんで自分が選ばれたんだろう」とか、「英語話せるかな」とか、物事に対してマイナスに考えていたけど、ドイツに行ってから、「失敗するかもしれないけど、とりあえず

行動に移してみよう」と前向きに物事をとらえるようになったし、英語でコミュニケーションをしたことで、自分の英語に少し自信がついたし、研修の時に頑張って準備した震災前、後、そして未来についての発表をしたことで、絶対にこのことを風化させてはいけないと思いました。私たちがどこかで震災の経験を伝えていかなければ、いつかはみんなが忘れてします。この記憶を将来、大人になっても伝えていきたいと思いました。だから、来年ドイツに行く高校生のみんなにも、あの時にどんな体験をして、何を考え、何を感じたのか、自分の思いをしっかりと伝えてきて欲しいと思っています。

最後に、私は、将来必ず日本語教師になって、ドイツに日本語を教えに行きます。お世話になった分の恩返しを絶対にします。

刈屋薫乃

<ふりかえり>

7日

市内観光では、風景や町並み、建造物を見ながら、ドイツについて学んだ。解説を交えながらの観光だったため、歴史的な面での出来事や様々なことに触れながら知ることができた。

帝国議事堂の見学では、案内者の方のご説明の下、どのように議会が行われているのか、現在の議事堂ができるまでの過程等がわかった。議員はそれぞれ様々な宗教に属しているため、礼拝やお祈りができるように、と設置された部屋があった。そのような点に配慮し、建設されたのがこのような国の中心的建物であることにも意味があるだろう。また、過去に兵士達が議事堂に残っていた壁の落書きを消さずに残してあった。ベルリンの壁に鮮やかな絵を描いて残す、という点とこのことは、ドイツ人の共通の国民性が表れているのではないだろうか。過去に起こった出来事がたとえ辛いことであったとしても、ドイツの人々はその事実を消し去ろうとはしないのだ。議事堂には、過去から現在までの議員の方々の名前が並べられている所があり、そこにも歴史的な事情が垣間見える工夫がほどこされていた。

午後は日本人大使館を訪問した。日本大使の方の挨拶やボッシュ財団のヤングリーダーとの交流を通じ、ドイツを訪問し活動していくことの重要性、責任を感じた。

刈屋薫乃

<ふりかえり>

8日

それぞれのホストファミリーに付き添いながら、カニジウス高校での授業と生活を体験した。日本とドイツの学校の違いで気づいた点として、黒板は必要以上に使用せず会話の

ように授業が進んでいくこと、生徒は疑問が浮かぶと即座に挙手をして発言をすることが挙げられる。ここでの授業は、日本のように教師が進めていくようなタイプとは異なり、授業をつくり、内容や考えを深めていくのは生徒なのだ。積極性の高さや、生徒と教師が授業を通じてコミュニケーションをとれていること等から、日本との学習に対する姿勢や考え方の違いがうかがえた、午後には東日本大震災に関する発表も行った。この発表は、私達 5 人がこの「翼プロジェクト」に産貸し、活動していることにおいて大きな役目を果たす重要なものだ。ドイツでは初めての発表だったが、質問に対しての返答は臨機応変に対応できた。ドイツに住んでいれば体感することはないであろう津波の恐怖や出来事、震災後の支援に対する感謝の気持ちが伝えられた時間だった。今後に向けての改善点や発表の流れがわかり、次に繋がるものになった。

佐藤秋

<ふりかえり>

9 日

カニジウス高校に集合して、ベルリン・ターフェルの見学と体験をしました。ベルリン・ターフェルでは、ホームレスの人や食料に困っている人に、ホテルやスーパー、市場などで捨てられてしまう野菜などをもらって、あげるという活動をしていました。私たちは、野菜の分別作業を体験しました。作業では食べられるものとそうでない物を分別しました。また、料理教室の見学もしました。ここでは、子どもに料理を教えていました。作業を終えて、ベルリン・ターフェルお n 活動の話も聞きました。話を聞いて食べ物大切さを感じました。たくさんの食べ物が捨てられている映像を見たり、作業をしていて食べられるものが沢山あったりして感じました。

午後は日本語補修校に行きました。日本語補修校の生徒とディベートをしました。日本ではそのような授業はあまりないのでとても新鮮でした。その後、私たちの発表をしました。カニジウス高校での発表からの 2 回目の発表でした。発表では、きちんと震災の事、感謝の気持ちを伝えられたと思います。質問などもきたのでよかったです。

夕方は、福澤さんの家に行きワークキャンプを始めました。ドイツの大学生さんも一緒でした。みんなでご飯の支度をしたりして、とても楽しかったです。日本でやった合宿ぶりに 5 人集まって泊まったりしたので楽しかったです。

今回の体験ではたくさんのことを学べることができましたし、とても良い交流でした。

私が一番楽しかったことはホームステイです。私はスベーニャの家にホームステイしました。空港に着いた時、思ったよりも日本語を話せるホストファミリーがいてびっくりしました。でも、スベーニャの家の人はまったく話せず英語だけでした。少し不安になりました。でも、自分の英語の力をためすことができたのでよかったです。タオルかしてとか選択してほしいとかお願いできたのでちょっと嬉しかったです。コミュニケーション

ンもちゃんととてたと思います。一緒にピザを作ったり、私も日本から持っていった食材で和風パスタを作ってあげたりしました。喜んでもらえたのでよかったです。ますます、英語に興味を持ちました。スベーニャともフェイスブックでつながっているので、今回で得た交流を大切にしていきたいと思います。

また、たくさんの観光、見学もしました。私が一番印象に残っている見学場所は、ベルリン・ターフェルです。作業の体験をしたり、ヤーナさんのプレゼンを聞いたりとても勉強になりました。食べ物が日頃に、あんなにたくさん捨てられていると知りおどろいたと同時に、これからはもっと大切にしようと思いました。

ドイツの観光はたくさん歩きました。街がきれいで、どこを写真にとったらいいのかわからなくなりました。全部がきれいで、日本語とはまったく違うからです。ベルリンの街には古い建物がたくさんありました。昔のものと現代のものが混ざり合い同じ場所に建っていました。昔の建物には昔の歴史が出ているものもありました。戦争の傷が残っていました。日本は忘れようとしているように感じますが、ベルリンではきちんと過去を知り、受け止めていると思いました。私は過去に起きたことはずっと先にも伝えていくべきだと思います。今回の震災もそうです。経験した者にとっては苦しいことだけれども、経験したつらいことだけでなく、人とのつながりの大切さを実感できました。だから伝えていきたいのです。

その伝えるということにおいて、今回はとてもいい機会でした。大人たちが伝えるものとはまた違ったものになったと思います。子供の目線から見た震災を伝えることができたかと思います。プレゼンの発表準備はとても大変でした。一度、完成したと思ってはやり直し、発表の仕方も何度も練習しました。たくさんのアドバイスをもらいながら、よりよく仕上げられるようにがんばることができました。私はベルリンでの交流で出会った人たちもですが、今回一緒に頑張った人たちとの関係も大切にしていきたいです。

最後に、このような貴重な体験をさせていただいたことに感謝して、学んだことをこれらの生活に生かしていきたいと思います。

佐藤秋

<ふりかえり>

## 10日

ワークキャンプ 2 日目です。午前それぞれが決めたテーマの発表をしました。ドイツの食事、グリム童話、日本食、漫画などのテーマでした。自分のテーマで調べたりする事はあまりないので、準備期間も楽しかったです。発表でもディスカッションもあり、緊張しましたが楽しかったです。

午後には日本人が植えたという桜並木を目指してお散歩をしました。緑がたくさんあってベルリンはとてもきれいな町だと思いました。歩きながら、いろいろな話しもできたのでよかったです。

この日の夕ご飯は、私たちが準備した手巻き寿司をしました。散歩から帰り、料理グループと買い出しグループに分かれて準備しました。パーティには絆ベルリンの方々やホストファミリーの人たちも来ました。手巻き寿司は喜んでもらえたのでよかったです。手巻き寿司以外にもみそ汁も出しました。みそ汁が人気でびっくりしました。私たちも、ワークキャンプの食事を通して、ドイツの食文化に触れることができました。

高橋奈央

<ふりかえり>

### 11日

福澤邸でのワークキャンプ最終日。プレゼンテーションでは、10日のつづきをした。このワークキャンプで出会った仲間のことは忘れないでいたいと思った。

午後はホストファミリーと共に自由行動。

5人とホストファミリーとでお土産を買いに行った。

アンペルマンショップや、チョコレートを自分で選んで作れる店など、岩手にはない珍しく、楽しい所をまわることができた。

だんだん帰りたくなってきた。

私は、今回このプロジェクト6に参加してみて、すごく良かったなあと思います。

その理由として、1つ目は「英語の力」がついたこと」です。今まで私は英語の単ピーキングが嫌い、なかなかうまくできなくてやりたくないなと思っていました。しかし今回、互いに母国語とは違う言葉でアントニアと話してみて、行動してみて、考えが変わりました。1日目は全然話せなくて、「もうダメだ」とくじけそうになりましたが、どんどん日を重ねていくうちに聞き取れるようになって、会話もしっかりできるようになりました。そして、外国の人と英語で話すのが好きになりました。今では、アントニアとのメールもすらすら書けるし、学校のネイティブスピーカーの先生とも英語で話せるようになったし、学校に講演として来た外国の方にも英語で質問できるようになりました。最初は英語なんてとは思いましたが、今では英語を使ってきちあまで思えるようになり、参加して良かったなあ、と本当に思います。

2つ目の理由は、「考え方が変わった」ということです。私がこのプロジェクトに参加した理由のひとつとして、「自分の視野を広げる」ということがありました。このことは、達成できたと思います。今まで狭い範囲でしか考えられなかった私が、今ではひとつ違う視点から考えてはどうか、と思うようになりました。ドイツでは、学校たことでの授業でとても手が挙がっていました。それは、私には「授業を積極的にやろう」と思っているようにみえたし、楽しんでいるようにも見えました。なぜなら、日本では、先生からあてられた人が答える、というのがいつもで、授業はどちらかというと受動的に受けていたからです。だから、ドイツに行つてすごくおどろきましたが、私もこれからはもっと力を入れ

て頑張ろうと思いました。

3つ目の理由は、「たくさんお人に出会えたこと」です。今回、本当にみなさんに会うことができ良かったな、と思います。このプロジェクトに参加して、私は、とてもたくさんの人に出会いました。遠野まごころネットのみなさん、福澤さん、フランクとブリギッテ、亜央さんとガブリエルさん、廣瀬さん、より子先生、ヤーナさん、そしてアントニアやこの人外にも多くの人たちに出会うことができ、分の良い経験にもなったし、とても楽しかったです。このみなさんのごはずっと忘れないと思います。

今回、翼プロジェクトに参加して、私は大きく成長することができました。震災の発表をして、感じたこともたくさんあります。たくさんの人にも出会い、考えや話をきくことができました。なにより、とても楽しい時間をドイツで過ごすことができました。また、今回、一緒にドイツに行った4人の仲間とも会うことができ、一緒に活動ができて、本当に良かったです。

今回は本当にありがとうございました。私はこの経験を生かして将来に役立てたいと思います。

高橋奈央

<ふりかえり>

#### 12日

今日は、ベルリンの壁を見ることができた。今まで教科書や資料集で少し知っていただけだったので、深く知ることができて良かった。

ドイツには、さまざまな建造物が残ってあってすばらしいと思った。

また、午後には障害者のための工場へ行った。そこでは、イスやブラシ、どれもきれいで、目の見えない人がつくっているとは思えないものばかりだった。

そこでは、良い買い物ができると思う。

歴史とドイツについて良く理解できた1日だった。s

刈屋薫乃

<ふりかえり>

#### 13日

13日はホームステイ最後の日でした。ポツダムに行き、お城を見たりしました。お別れ会では、沢山食べて、話をして、寂しさもありましたがとても楽しかったです。ドイツでの感想を話した時、「また来ます。」と言ったらフランクさんが「そうしましょう。」と言ってくれたり、その後に「また会おうね」「またドイツに来てね。」と話しかけてくれる方もいて、皆さんの温かさにとっても嬉しくなりました。

こうして改めて日々を思い返すと、本当にたくさんの方があったな、と思います。考

え方も変わったし視野も広がり、勇気を出して応募して良かったです。この活動に協力してくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ドイツでの出会いをこれからも大切にしたいし、将来ドイツにまた行きたいと心から思います。自分を変えてくれたこの10日間は私にとってかけがえのない大切な思い出です。

阿部美月

<ふりかえり>

**15日** 成田着 10:50 頃→成田エクスプレスで東京へ  
東京駅発 12:57→仙台で乗り換え→新花巻着 15:41  
全員無事に帰ることができました。  
時差ぼけが大変でした。

#### <編集後記>佐藤秋

この交流プログラムは5人ともとても充実したものとなりました。沢山のひととの出会い、交流、日本ではきっとできないであろう経験、多くの学びがありました。

私たちは、自分たちの経験した震災の事、たくさんの支援に対する感謝の気持ちを伝えるためにこのプロジェクトに参加しました。そのために、みんなで発表原稿を考え、解りやすく伝えるためにはどうしたらよいか、準備に励みました。ドイツでは、発表機会をたくさん頂けたくさんの人に聞いてもらうことが出来て、とても嬉しかったです。

このプロジェクトを企画してくださった絆ベルリンの方々、遠野まごころネットの方々、私たちを受け入れてくださったホームファミリーの皆様、このプロジェクトに関わり、私たちをサポートしてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。また、一緒に頑張った4人にも感謝です。

#### <編集後記>刈屋薫乃

翼プロジェクトは、私達に多くのことを学ばせてくれた。

震災の支援への感謝、被害を受けた地域の現状を伝えよう。そう考え、皆で試行錯誤しながら発表の準備を進めてきた。ドイツで発表をし、感謝や思いを伝えられたことへの達成感も大きい。被災地で生活をしている人々にとって、震災は辛く、いい事はひとつもなかった。だが、震災があったからこそこのプロジェクトに参加することができ、たくさんの出会いがあった。そう思わせてくれた今回のドイツ訪問は、本当に貴重な経験だ。

自分がやりたいことを自分自身でやろうとすることで、自立にも繋がった。日本語が通じない方と英語で会話をしていく中で、自ら積極的に英語で話しかけるようになった。10日間という短い期間ではあったが、私達は様々な面で変わることができた。ドイツで過ごした日々や人との繋がりは、今後の良い影響を与えてくれるだろう。忘れることのできない、とても充実した毎日だった。

この計画に携わってくれた方々、すべての人に感謝したい。そして、今後の翼プロジェクトが更に素晴らしいものとなり、日本とドイツが良い関係を築いていくことを願っている。